

～ 次世代が憧れる農業をめざして～

浮穴 佳温さん（松前町）

レタス、えだまめ生産農家 松前町認定農業者
家族経営協定締結済み 1981年生まれ



☆経営概況☆

夫婦でレタス 120a、えだまめ 40a、オクラ6a（農繁期は母の支援あり）で農業経営に取り組んでいます。

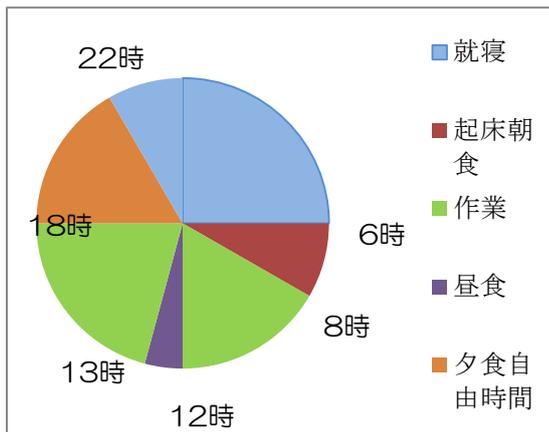
☆ここがポイント☆

就農前に1年間、町内の先輩農家でレタス栽培に従事しながら農業大学の担い手支援塾で研修したことが非常に役立っています。同志ともいえる仲間づくり、相談相手（なんでも情報源）確保はこの時期から始まりました。

首都圏でアパレル関係の営業マンをしていましたが、一からモノづくりにこだわりたいとの思いで、生産から販売まで関われる農業、家族だけでできる農業を実践しています。幼い子供が食べても安心な野菜を作るため、できる限り減農薬に取り組んでいます。新規参入者のモデルになれば良いと考えています。

否定的なことは考えない、言わないことが大切です。実際にやってみて初めてわかることがいっぱいあります。作物と向き合っていると、いろいろなことを教えてくれます。

年末年始のレタスと6月のえだまめの時期は忙しいです。毎朝収穫するオクラは限りなく無農薬に近づけています。



【普段の生活について】

延長保育の子供を迎えに行く必要があるため、農繁期の例外を除いて18時にはすべての作業を終了します。

夜なべ仕事は際限がなく、生活にけじめがつかないのでしていません。

現在の趣味は、子育てです。日曜日は農業の休日と決めて、子供が小さい今しかできない家族のふれあいの時間を大切にしています。

農閑期には長期の旅行や情報収集をします。次年度以降への種まきの時期と考えています。複数年で取り組む必要のある事柄には、早め早めに取りかかります。



☆これからの夢や目指すもの☆

■第三の柱の確立

レタスとえだまめで経営の基幹品目の見通しが立ったので、この二品目の規模拡大か、新規品目としてのハウストマトで、年間労働時間の平滑化を図ります。ハウス建設圃場が見つかったら低段密植のトマトに取り組み、5年後を目途に法人化して経営の体質強化を図りたいと話合っています。さらに収益率を上げるために、いろいろな販売形態、方法を試してみたいと考えています。

■省力化の取り組み

経営規模を拡大するためには、農業機械の導入が大切であると考えています。これまでにレタス移植機やレタス包装機を導入済みで、今後はマルチャの導入を検討しています。

※ 「マルチャ」は、土壌の保温や雑草抑制、病害防除などを目的とするマルチフィルムを土壌表面に覆うための作業機。

☆メッセージ☆

自分の経験から見て、サラリーマン時代よりも年収を多くする農業経営は可能だと考えています。就農した直後から2年目までは経営は厳しいけれど、その時期を乗り越えると非常に面白いと思います。やり方次第で何とでもなります。まずは実践してみることです。